

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|---------------------|----|--------|----|
| ○事業所名 | 児童デイ ゆめときわ2（児童発達支援） | | | |
| ○保護者評価実施期間 | R7年1月6日～R7年1月20日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 3名 | (回答者数) | 2名 |
| ○従業者評価実施期間 | R7年1月6日～R7年1月20日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8名 | (回答者数) | 8名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R7年2月17日 | | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 様々な資格を持った職員からの支援を受けることができる。 | 様々な視点からの意見が出るため、職員間で共有し職員のスキルアップや支援内容への反映を行っている。 | 内部研修以外に外部研修への参加の機会を増やし、職員のスキルアップにつなげていく。 |
| 2 | 利用者様の利用状況が当事業所のみの場合が多く、利用者様の状況の把握がしやすい。 | 支援の計画を立てる際に、長期的かつ継続的な支援が見込めるためより子供たちの成長に繋がるような計画を立てやすい。 | 継続的に利用してくださるからこそ子どもたちの細かい変化を見逃さないような観察力を養う為、日頃から情報共有を行っていく。 |
| 3 | アットホームな環境なので、お友だちとの関り方を多く学ぶことができる。 | SSTやロールプレイを取り入れながら支援し、子ども達のやり取りの中で、あえて職員が介入せずにやり取りする力を養ったりしている。 | 職員が子どもを誘導したり対応する力や知識をつけるために、フロア会議でのケース検討会などを行っていく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会がない。 | 必要に応じて部分的に出来てはいるが、保護者様を招いての研修となると、働いている保護者様も多く日程の調整が難しい。 | 年に1回の保護者会の回数を増やして保護者様の参加の機会を増やしていくなどの工夫をしていく。 |
| 2 | 保護者に対する情報開示手段が少ない。 | 各種マニュアルなど情報量が多いものを保護者様に周知する時間がうまく取れていない。 | 今後はホームページ等で保護者様の都合のいいタイミングで確認できる手段を講じていこうと考えている。 |
| 3 | 放課後等児童クラブ・児童館・地域住民との交流がない。 | 先方や、こちら側にも配慮する点が多く、実施することが難しい。 | 交流を実施する場合は、長期的な計画を立てながら行う。先方との綿密な情報共有を行う。 |